

クラフト マーケット
～杏林大学・日本航空・三鷹市と協働で「Craft Market@杏林大学」を実施～
「楽しいイベント」×「防災」＋「交流」＝災害に強いまちづくり
「楽しいイベント」に防災の要素を掛け合わせ・人と人の繋がりを作り地域の防災力を高める

三菱地所レジデンス株式会社（以下、三菱地所レジデンス）は、杏林大学、日本航空株式会社、三鷹市と協働し、2022 年 11 月 12 日（土）・13 日（日）の 2 日間にわたり、杏林大学井の頭キャンパス（東京都三鷹市）において、日本全国の魅力を届けるために、15 地域の特産品を集めた「Craft Market@ 杏林大学」を開催し、約 5,000 人の来場者が参加しました。



三菱地所レジデンスと杏林大学は、2020 年 3 月に防災力強化を目的とした「防災協定」を締結し、地域防災に関するワークショップの実施や、学校の授業・防災ツール「そなえるドリル」英語版の作成等、災害に強いコミュニティやまちづくりを協働してきました。三菱地所レジデンスでは、今回の「Craft Market@ 杏林大学」で、まちの防災力の強化に貢献すること、さらに全国各地のまちや人との繋がりが生まれることに可能性を感じ、SDGs や災害に強いまちづくりをより一層広げていくことを実現したいと考え、三鷹市と協働で「親子向けの防災ワークショップ」と「ツナ缶ランプづくり」を実施し、約 420 人の子供たちと一緒に防災について考えました。さらに、防災のブースと併せて「おもちゃ・洋服のリユース」を取り入れ、地域の人と人が繋がりを作ることで、災害時の助け合いを促す仕組みの構築を実現しました。

【「Craft Market@ 杏林大学」での三菱地所レジデンスの取り組みの特長】

- (1) Craft Market のような「楽しいイベント」に防災の要素を取り入れ、備えを考える機会を創出
- (2) 防災の備えを考える「そなえるドリル」ワークショップを三鷹市と実施し、地域の防災力を高める
- (3) 自宅に眠っているおもちゃ・洋服を持ち寄りリユースすることで、地域で人と人が繋がり災害時の助け合いを促す



▲「Craft Market@ 杏林大学」の様子



▲「そなえるドリル」ワークショップ

三菱地所レジデンスと杏林大学は、今後も、防災・持続可能な取り組みを通じ、様々な業種と連携・協力し、災害に強いコミュニティやまちづくり・サステナブルな社会の実現を推進してまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

■Craft Market のような「楽しいイベント」に防災の要素を取り入れ、備えを考える機会を創出

三菱地所レジデンスは、管理会社の三菱地所コミュニティと協力し防災訓練をサポートしています。活動を通じて、防災への関心はあるものの防災訓練への参加はハードルが高いということも分かりました。より多くの方に「安心・安全な暮らし」を届けたいと考え、参加の動機付けや人が集まりやすい工夫として、人が集い賑わうイベントに防災の要素を取り入れました。「楽しいイベント」で防災について考えるきっかけを作ることで、参加者が知らず知らずのうちに自然と備えに対する防災意識を高め、そして人と人との繋がりが地域の防災力を向上させ、災害時の助け合いを促す仕組みの構築を実現しました。

また、今回の Craft Market では杏林大学の学生と一緒に防災プログラムを実施し、ともに「楽しいイベント」で防災意識を高める活動を行いました。三菱地所レジデンスの取り組みと一緒に体験してもらうことで、その意義を広げていきたいと考えています。



▲「Craft Market@杏林大学」の様子



▲15 地域の特産品を集めた各地のブースの一つ

■防災の備えを考える「そなえるドリル」ワークショップを三鷹市と実施し、地域の防災力を高める

「三菱地所グループの防災倶楽部」と三鷹市が協働し、三鷹市のハザードマップジオラマでハザードマップの確認をしながら、親子が家族を想定して考える防災ツール「そなえるドリル」を使ったワークショップ、ならびに自宅にある身近なツナ缶を使った簡易ランプづくり体験を実施しました。ワークショップで災害時のトイレの備えを考える中で、三鷹市が備えている期限が切れてしまった「簡易トイレ」を上手く活用し、互いに持っているノウハウを享受しながら防災の備えを地域に広げることができました。

また、イベントに参加した運営メンバー全員で防災について考えるきっかけを作るために、防災備蓄倉庫に保管されているアルファ米のドライカレー50 食分を実際に作り、この体験を通して災害時への備えについて考えました。



▲「そなえるドリル」ワークショップ



▲ツナ缶ランプづくり



▲イベントに参加した杏林大学生



▲三鷹市防災課の職員と非常食アルファ米 50 人分を作る様子

■自宅に眠っているおもちゃ・洋服を持ち寄りリユースすることで、地域で人と人が繋がり災害時の助け合いを促す

地域の人と人が繋がるのが災害時の助け合いを促すと考え、三鷹市の地域で活動している「おさがリサイクルプロジェクト（後援：井の頭一丁目町会）」と共に、三菱地所レジデンスのブース内に、参加者が自宅に眠っているおもちゃや洋服を持ち寄り、リユースさせることによって地域で循環し、捨てられるおもちゃや洋服を減らしていく持続可能な取り組みを実施しました。当日は、多くの親子がおもちゃや洋服を手にブースを訪れ、新たなお気に入りと出会って、「自分のまちで誰かの役に立ち、喜んでもらえるのが嬉しい」「この地域で循環できる仕組みが良いな」といった声がありました。モノを介して人と人が繋がることで、地域の繋がりが強化され、災害時の助け合いを促すエリア防災に繋がると考えています。



▲おもちゃのリユース



▲洋服のリユース

【三菱地所レジデンスと杏林大学の産学連携での防災まちづくり】

三菱地所レジデンスと杏林大学は、「防災協定」を締結し産学連携で防災力強化に取り組んでいます。杏林大学は米国ポートランド州立大学とともに「災害に備えるまちづくり」フィールドワークを、東日本大震災で被災した三陸地域や首都直下地震に備える東京等で行っています。その一環で2019年6月に三菱地所グループや三菱地所レジデンスが供給した千葉県習志野市津田沼「奏の杜（かなでのもり）」のマンションを訪問し、防災を軸にしたまちづくりの知見を共有しました。2019年9月には、地域防災に関するワークショップの実施。2020年3月には防災ツール「そなえるドリル」の英語版を作成し、日本で生活する外国人の方にも伝えるなど、防災活動を進化させています。



▲ポートランド州立大学・杏林大学のフィールドワークの様子
(三菱地所グループの取り組み共有)



▲「そなえるドリル」を活用した地域防災ワークショップの様子

【三菱地所グループが進める防災まちづくりの事例】

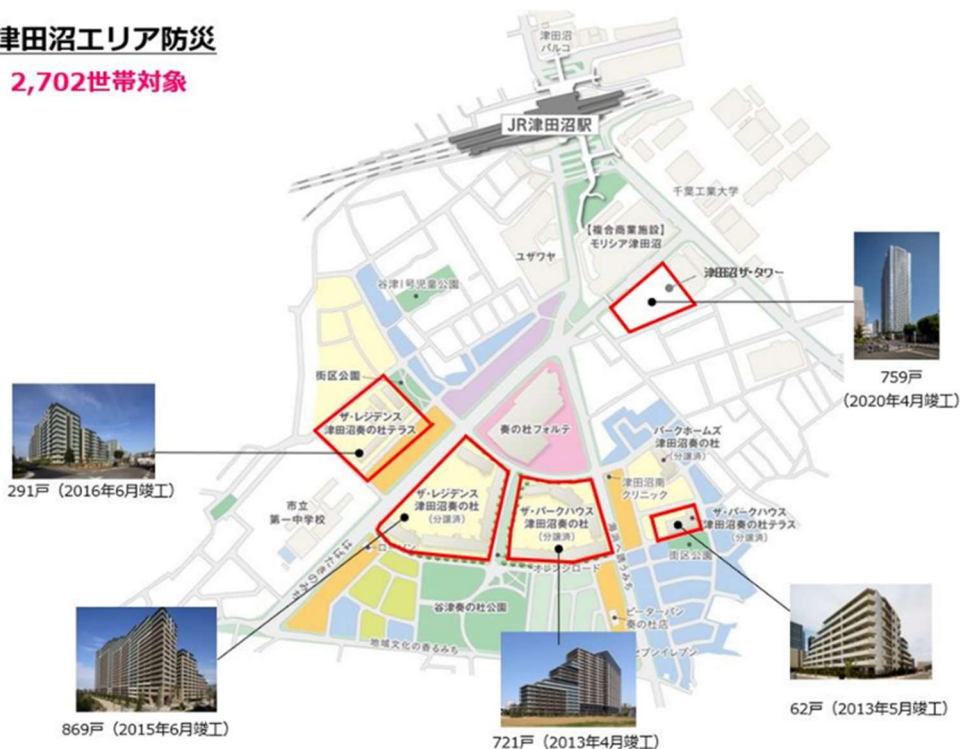
<千葉県習志野市津田沼「奏の杜」エリア>

千葉県習志野市津田沼「奏の杜」エリアでは、まちで助け合うことを目指し、三菱地所グループが分譲・管理している物件に加え、他社分譲・管理物件も含め、約2,700世帯を対象とした防災訓練を継続して実施しています。

2015年3月に「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜」で始まった防災訓練は、同エリアの「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜テラス」「ザ・レジデンス 津田沼奏の杜」「ザ・レジデンス 津田沼奏の杜テラス」「津田沼ザ・タワー」へと広がり、コロナ禍においてもオンラインの防災訓練の実施で活動を継続しています。

津田沼エリア防災

2,702世帯対象





▲約 600 人が谷津奏の杜公園に避難している様子



▲2022 年 3 月に実施したオンライン防災訓練の様子

＜泉パークタウン＞

「泉パークタウン」は、宮城県仙台市泉区にて、三菱地所が中心となってまちづくりを進めてきた、約 1 万世帯が居住する郊外型住宅団地です。総開発面積 約 1,074ha（約 325 万坪）、「人と自然の調和した快適な住環境」と「住む」「働く」「憩う」「学ぶ・集う・楽しむ」といった多彩な生活機能を備えた複合型の都市構築をテーマに、1974 年より分譲を開始し、以降 50 年近くにわたりまちづくりが行われています。

その中で、「防災」を軸にまちとまちとの連携、まちの防災力強化、まちと人とのつながりを促進するため、泉パークタウンサービスと三菱地所グループの防災倶楽部が協力して、既存町内会との防災訓練やワークショップを実施しています。中でもスマートシティを目指す新街区「朝日」ではより一層の防災の取り組みが求められ、安心・安全な暮らしを実現するための防災活動を取り進める予定です。



▲寺岡地区でのワークショップの様子

＜三軒茶屋エリア、中野エリアでのワークショップ開催＞

- ・三軒茶屋エリアでは、SDGs イベント「ACT NOW!～子供たち考える地球の未来～」に参加し、防災ツール「そなえるドリル」のワークショップや「マンション家計簿」の知見を活かした「省エネの暮らし実践編」を伝える活動を行いました。
- ・中野エリアでは、中野区防災イベント「おやこ防災チャレンジデー」に参加し、「そなえるドリル」のワークショップを実施しました。



▲三軒茶屋エリアの「そなえるドリル」ワークショップ

三菱地所レジデンスでは、防災訓練に加え、防災に関わるさまざまなイベントでワークショップを実施しています。まちの人と人との繋がることで「災害に強いまちづくり」を実現したいと考えています。

【参考】「三菱地所グループの防災倶楽部」について

三菱地所グループでは、1923年の関東大震災以来約100年「防災」に取り組んでまいりました。三菱地所レジデンスは、三菱地所グループが永年培ったノウハウを取り入れ、マンションのハード面に加え、防災マニュアルや防災訓練を積極的に実施・サポートしています。防災意識の向上や訓練の進化・深化を目的に三菱地所レジデンス社員有志によるボランティア組織「三菱地所グループの防災倶楽部」を2014年10月に立ち上げ、現在は三菱地所レジデンスと三菱地所コミュニティ約130名の社員で取り組んでいます。防災倶楽部はマンション管理組合に対し新たな訓練メニューなどを提案しており、これまでに三菱地所コミュニティが管理するマンション104物件・30,459世帯を対象とした防災訓練をサポートしています。今後も災害に対し、迅速に対応できる体制構築を広く浸透させていくべく、防災力強化のための活動を行ってまいります。



▲関東大震災発生時に開設された三菱臨時診療所



▲三菱地所グループの防災倶楽部メンバー

【参考】「そなえるカルタ」「そなえるドリル」について

東日本大震災・熊本地震等の生の声を届けるために、実際に困ったことを「トイレ」・「食糧」・「情報」といった切り口で伝える防災ツール「そなえるカルタ」。

子どもと大人が家族を想定して考える防災ツール「そなえるドリル」。

自分や家族のことを実際に書き、大人と相談して答えを出す要素を取り入れ具体的な行動につなげます。

この「そなえるカルタ」と「そなえるドリル」は、ザ・パークハウスの防災プログラムホームページ上で“ドナタデモ”ダウンロードが可能です。

ザ・パークハウスの防災プログラムホームページ

<http://www.mecsumai.com/bousai/>



以上